

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1092700119 | | |
| 法人名 | NPO法人あかね会 | | |
| 事業所名 | グループホームあすなろ | | |
| 所在地 | 群馬県利根郡みなかみ町新巻29 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年3月18日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://akanekai-f.com |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年3月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>入居されているご利用者様が自宅にいるような環境作りが出来ればと思い個々のご利用者様の人となりを大切に全スタッフでケアプラン作成にかかわり意見交換の場も多く持ち、一人一人のスタッフが自身で考え、全員で最適なケアとはを導き出していく事業所であることに力を入れています。諦めない介護を全員で。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>事業継承して1年の間で、地域住民と顔がわかる関係を築き、事業所の災害訓練への地域住民参加までにつなげている。また、開設の思いを理念にして、職員の関わりが理念に照らしたものとなるよう指導をしており、入浴方法の改善・納涼祭の開催などにも取り組んでいる。調理スタッフもふくめてすべての職員で取り組む考えであり、行事の企画の他、利用者の受け入れについても相談し、職員の意見があればその理由(根拠)を聞き、解決するべく他機関への相談を行っている。職員には、目標設定と自己評価・面接を行う仕組みを作り、必要としている利用者のために、あきらめない介護をするという考えのもと、職員の育成に力を入れている。そのために、職員で話し合いができる・休憩がとれる場所を確保して、職員が働きやすい環境と居心地のよい利用者の生活の場をつくっている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ○常に傾聴を忘れないように意識を持ち、今日の自分より明日の自分が成長できるように意識し実践に繋げています。 | 必要としているひとのために何かしたいという思いのもと、地域への貢献・心の声を聞く傾聴・職員と事業所の成長を理念に掲げ、職員の利用者への関わりでそぐわないと感じた時には、職員の関わり方の根拠を聞いた上で理念に照らして指導をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ○昨年末の災害時及び避難訓練で地域の方にも参加をしていただき、利用者様と交流をしました。定期的な理容室の利用で地域の方と交流をしています。 | 地域とのつながりを大切に考えており、地域の水害訓練に利用者に参加して利用者を知ってもらうこと、事業所の火災訓練に参加してもらう呼びかけをして実現につなげている。そうした関わりが実を結び1年で顔がわかる関係となり、今後は納涼祭に招待したいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ○昨年末の災害時及び避難訓練を通してホームの利用者様と一緒に参加していただける機会があり短時間ではありましたが認知症介護事業所の取り組みをお話しすることが出来、認知症介護の相談窓口としての地域での役割も伝えることが出来たと思います。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ○推進会議委員の方々からの助言とホーム周辺の地域状況を教えていただきながら地域との繋がりを大切に災害時の避難訓練などを通してホームへの理解を深めて頂いている。 | 会議は、2ヶ月に1回開催されており、事業所の行事や取り組みについて報告している。報告をするなかで、施設内見学をしたいという意向にもつながっている。開催日程の関係で、家族の参加が難しい状況にある。今後は、地域の方などとのつながりや、質疑応答にも対応できるような人材となるよう職員参加も検討している。 | 家族の参加が難しい状況であるが、運営推進会議の内容(研修・避難訓練など)をお伝えすることで、運営をもに考えることにつながる機会となることに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ○各居宅事業所の担当者の方へはグループホームの実情を詳細に連絡を入れるようにしています。すでに入居されている利用者様の様子についても折に触れ状況を伝えることに心掛け、ホームの取り組みへのご理解を頂けるよう努めています。 | 運営推進会議での報告の他、空き室があった場合には報告、利用者の区分変更などの相談などを行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ○グループホームにおいては介護職員の身体拘束について禁止行為がないか注視している。虐待防止研修と合わせて身体拘束の防止についてホーム内研修に努めている。 | 身体拘束は行っておらず、直近ではスピーチロックについて研修を行っている。日頃のケアのなかでの言動について検証して、利用者には危険がなく不安にさせないような言い換えを学習している。研修後は、レポート提出やミーティングで感想を発表するなど、振り返りの機会を作っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ○グループホームにおいては介護施設職員の虐待行為について日々の介護の中で小さな利用者様の変化にも注意を払い意図的に不適切な行為がないか注視している。身体拘束の研修と合わせて虐待事例等での防止についてホーム内研修に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ○ 実際に成年後見人制度を利用されている利用者様も以前にいらして、成年後見の方がどの様にかかわっているのかその方のホームでも生活・介護を通しての学びは有りましたが制度の理解と活用への研修はさらに必要と考えます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ○ 契約においてはキーパーソンの方、ご家族様へ契約内容のご理解を頂くため、補足として分かりやすい言葉で説明し納得を頂けるように心掛けています。契約条件の改定等は十分な期間を取り書面にて通知・承認を頂くようにしています。契約後の不安・疑問点などいつでも問い合わせに答えられるようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ○ ホームへの意見・希望・要望は常に表せることが出来る旨は利用者様ご家族へは伝わっています。機会については利用者様との日々の生活の中で職員が傾聴することで気づいたことなどを通してご家族と話をする時間を設けたり、ホームからのお願い等を書面と対話などで意見を頂くようにしています。それらも統合して運営に反映できるよう心掛けています。 | 管理者自身の家族の立場の経験をもとに、家族の要望にはできるだけ柔軟に応えたいと考えており、面会時に意見を聞いている。また、運営に関する意見ではないが、利用者支援においては、家族から情報を得るようにするとともに、支援の意向を聞いて、ケアに活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ○ 定期的にスタッフと話をする場を設けて下さりスタッフの意見にも耳を傾けてくださっています。提案した意見の検討をし最善の方法で実施して頂いています。 | すべての職員で運営をしていきたいという考えのもと、担当を決めずに、利用者支援・行事企画などについて月1回の会議で話し合っている。職員の成長が利用者支援につながると、年1回個人目標の設定と自己評価・面接をする仕組みがある。職員の意見をもとに、タブレットでの入力につなげた実績がある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ○ 定期的にスタッフと話し、スタッフの勤務状況の把握、やりがいなど話をする場を設けて頂いている。仕事とプライベートの両立が図れるよう職場環境の整備や勤務条件に柔軟に対応していただいています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ○ 定期的にスタッフと話し、仕事の力量把握・困っていることの把握をしてくださっています。アドバイスや働きやすい環境を整えて頂いています。また別施設のスタッフがヘルプで入ったときに教えて頂ける機会を設けてもらっています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ○ 別施設のスタッフとの交流やヘルプで来て頂くことがあります。別施設のスタッフと仕事をすることで、普段やっていない事への気づき、アドバイスをもらえています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ○利用者様の生活の意向等を聞く機会を作り傾聴・会話を通して安心の確保や関係を深めていき、気軽に話ができるような関係性を築いています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ○契約時、面会時、電話等によりご家族の要望や、不安なことに傾聴し、ご家族との関係も深めていき関係づくりに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ○利用者様・ご家族と話をし困っていることや要望などを聞き出し、アドバイスをしたり、支援方法を検討し対応しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ○利用者通しのコミュニケーションを築けるように環境を整えています。 自立支援の考えを大切に出来ることを継続していただいています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ○ご本人と家族が電話で話せる機会を作っています。 定期的に利用者様の様子をご家族へ伝えるようにしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ○なじみの床屋に行けるように支援しています。 感染症の拡大状況にもよりますが、面会や希望地へのドライブなど行うようにしています。 | 馴染みの人や場との関わりを継続することが利用者の状況やコロナ禍で困難であるが、歌謡曲をかけることで当時の話に話題が広がったり、来客や催しものがあれば挨拶をしてもらったり、慣れ親しんだ場を再現する機会をつくっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ○その時の状況、関係性に注意しながら、穏やかに過ごせるよう環境作りをし支援に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ○要望があれば写真の提供などを行っています。移動先からの相談にも対応しています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ○日々のアセスメント、利用者様の希望、意向を把握できる限り要望に応えられるようにしています。 | 言葉にするのが難しい人には、興味や関心があることへの言葉かけや、わかりやすい言葉かけに努めている。言葉にするひとであっても、表情をみて、その方が望む一人でいられる環境を作ったり、家族にそうした状況を聞いたりして、利用者の意向を確認している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ○入居時にこれまでの生活環境、暮らし方をご家族から聞くようしています。サービス利用の経過等の情報に全職員目を通すようにして利用者様の把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ○入居前の過ごし方をご家族から聞くようしています。好みの仕事の把握をしできることは手伝ってもらっています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ○利用者様・家族の意見を聞き、毎月ケア会議の実施をし、頂いた意見やアイデアの反映に努めています。3カ月ごとに短期目標を検討して利用者様に寄り添った介護をしています。 | 介護計画のサービス内容については、3ヶ月に1回すべての職員が参加してそれぞれが気づいたことを話し合い、評価をして見直しにつなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ○タブレット入力・職員の共有ノートへの記録をし全スタッフが把握できるようにしています。毎月一回のケア会議の開催にて情報共有をし介護計画の見直しに活かしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ○ご本人・ご家族の状況・意向を聞き柔軟に対応できるように取り組んでいます。今ホームとして対応していない事でも対応できないかスタッフで考え取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ○地域ケアマネ会議の出席を通し指導・研修・サポートを受け適切なサービス提供が出来るように努めています。利用者様が楽しく生活できるよう学んだことを生かし支援しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ○利用者様・ご家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診をし、適切な医療が受けられるよう支援しています。 | 入居時に、これまでのかかりつけ医を聞き、今後の受診についての意向を確認している。遠方の医療機関を受診する場合には家族の付き添いとしているが、困難な場合には事業所に対応している。受診の際には、排便・バイタルなど一覧表の出力をして情報提供のもと指示を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | △職場内の看護職はいないが、系列のデイサービスに看護師がいるため相談しアドバイスをもらえます。また週一回の訪問看護でアドバイスを頂き、個々の利用者様の状態確認をしていただき受診などアドバイスを受け支援に繋がっています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ○利用者が入院した際は、医療機関へ介護情報提供書や薬剤情報の提出・電話など情報交換をしています。早期に退院できるようホームでの過ごし方等アドバイスをもらっています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ○出来る限り家族希望に寄り添えるように話し合いをし、ホームとして対応できることの説明・方針を決めています。かかりつけ医・訪問看護ステーションと相談し支援に取り組んでいます。 | 常時医療行為が必要となったら、入院や他施設への転居としているが、口から食べられなくなった時にはペースト食・好きな甘いもの(プリン)などで摂取につなげたり、訪問看護による医療行為をしたりなど、できることに取り組んでいる。最期に事業所に戻りたいという利用者の意向に、職員と話し合い共通認識を図った事例がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ○救急対応にひびいてくる状態変化があったときは救急搬送に沿ったマニュアルで対応しています。応急手当は状態に応じて救急隊から指示を仰いだり、訪問看護ステーションの指示を仰いでいます。救急搬送の事例を振り返り適切な対応だったか振り返りをしています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ○年2回の避難訓練を通じて地域の方との協力体制を築いています。職員は訓練へ参加し利用者様の避難できる方法を身につけています。 | 年2回、消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。職員の提案で、水消火器を使用した訓練を、地域の方も参加して行った。また、地域の寺からの申し出を受け、緊急時には要請することにも可能となっている。備蓄は、敷地内倉庫に準備をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ○ 一人一人違う考えを持っていることを尊重し、個性を大切に利用者様の意思を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、対応・声かけを心掛けています。 | 利用者のつみあげてきた人生を、家族から細かく聞き取り、大事にしてきたことを尊重するようにしている。そうしたなか、利用者のいまの状況にあわせて、利用者にとって安心する呼称で呼ぶこともある。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ○ 声かけから始め、傾聴し利用者様の思いを聞き出し、自己決定できるよう働きかけています。聞いた内容に沿って利用者様の同意を経て実施しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ○ スタッフが何かをするように決めるのではなく、日々の利用者様の様子・ペースに合わせて生活できるよう希望を伺い柔軟な対応をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ○ 利用者様のなじみのある服を着ていただいています。散髪の希望がある方は理容室に行く支援をしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ○ 台所仕事が好きで利用者様が入居しているときは、スタッフと一緒に調理していただいています。現在は食器洗いや、食器拭きを行って頂いています。 | 食事は、食材業者から食材が届き、調理担当職員が調理している。食材業者の季節メニューもあるが、季節を感じてほしいと考えて、山菜や頂いた葉物を使った調理も提供している。食事を楽しんでほしいと考え、見た目(食器の使い方・トレー)にも配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ○ 水分摂取量制限・カロリー制限・禁止食品がある利用者様もいるので、水分量や食事摂取量の記録をしています。カロリー制限のある利用者様は調理時カロリー計算を提供しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ○ 毎食後の口腔ケアの実施を行っています。口腔ケア時の介助・補助を行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ○排泄の記録を残し、パターン・習慣の把握に努め、時間で声かけ・誘導・介助を行っています。 | 排泄チェックがタブレット入力により画面でわかり、自立の方でも時間をみて声をかけたり、定時誘導したりして、トイレでの排泄を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ○乳酸菌飲料の提供や腹部マッサージ、毎日の体操など声掛けをし行ってもらっています。排便が出ているか確認をし便秘にならない様に予防しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | △入浴の希望を確認し行っています。入浴日や入浴時間帯は限られてしまっています。 | 入浴は月8日として、利用者の健康状態・気持ち・排泄の状況なども含めて、入浴する方を決めている。入浴方法を改善し気持ちよい入浴支援を行うとともに、しょうぶやりんご湯などで楽しむ他、コミュニケーションを図るよい機会であると捉えている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ○日中も様子を見て入床の声掛けを行っています。安心して眠れるように居室温度・寝具・衣類の調整を行っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ○変更時はスタッフ全員が把握できるよう申し送り、変更状況を記録へ残しています。症状の変化があったときはスタッフ間で共有し確認しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ○利用者様の好きなこと、できることを手伝ってもらっています。レクリエーション・運動などの実施・季節ごとの施設内展示物の作成などを行っています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ○感染症の状況にもよってしましますが、ドライブや散歩・外泊等、利用者様の希望を聞き、ご家族と相談し行っています。 | コロナ禍であっても、人と接触しないようなドライブなどを行い、季節にあわせて赤谷湖のこのぼり・伊賀の花畑などに出掛けている。お出掛けの際にはおやつを持って行ったり、外出先でクレープを食べたりして、外出をたのしんでいる。外出の前には洋服を着替える方もいるなど、気分が高揚する機会となっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | × ホームへのお金の持ち込みは禁止しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ○ ご利用者様希望時に電話をかけています。手紙を出すことはないですが、届いた手紙を居室に飾っています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ○ 共用スペースには季節やイベントの飾りつけを行い、過ごしやすい温度の設定、音量に注意しながらなじみのある音楽をかけたなりし、居心地よく過ごせるように工夫しています。 | 玄関には、事業所名「あすなろ」に込めた思いが掲示されている。ホールには季節の飾りと手作りカレンダーがある。一人になりたい方や人間関係でなにかあった場合には、一人になれるよう机と椅子を用意して居場所づくりに配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ○ 共用スペースの席は指定席を作らず、利用者様の好きな場所に座って頂き過ごしてもらっています。ホールには椅子やソファが設置されており、気の合う利用者様通して話ができる空間もあり、独りになりたいときには一人で過ごせる居場所の確保をしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ○ 入居時に家の間取りを確認し近づけるようにしています。なじみのタンスや布団などを持ってきて頂き、居心地よく過ごせるように工夫しています。 | 入居の際には、使い慣れた寝具や家具・茶碗などの持ち込みを伝えており、安心して暮らせるよう家族にも依頼している。また、ベッドの配置も自宅ではどのような位置だったかも聞いて、動線も含めて配置を検討している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ○ 居室入り口に名前の表示・トイレ表示・見やすい場所へ時計・カレンダー設置等・歩行不安定な利用者様にははての届くところへつかまるものがあるようにして、安全かつ自立した生活が送れるようにしています。 | | |